



Japan Society for Tobacco Control

日本禁煙学会

〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町30-5-201

Tel 090-4435-9673 Fax 03-5360-6736

<http://www.nosmoke55.jp/> E-mail : mail:desk@nosmoke55.jp/

平成 24 年 9 月 23 日

週刊朝日編集長 河島大四様

日本禁煙学会 理事長 作田 学

日頃は、正しい報道に努められていることに感銘を覚えております。

さて、9月28日号の記事につきまして、疑義がありますので、お答えを願いたいと思いません。

我が国の医療行政上、副作用報告ということはもっともゆるがせに出来ないことをご承知の通りです。これが無くしては、医薬品を安心して使うことは出来なくなります。ましてや死亡事故（異常死、自殺等）が起こった場合は必ずや副作用報告として、国にあげられるようなシステムになっております。

しかるに、9月28日号で大々的に全国に報道されたチャンピクスによる30代男性の自殺例は、睡眠障害、消化器症状、滅裂、暴力行為、幻覚、気分易変容など多彩な症状の末、自殺に至っているように書かれています。この症例は病院の禁煙外来の医師からファイザー社を経由してすでに国に報告が上がっているものとばかり思っておりましたところ、2ヶ月たってもファイザー社でも把握していないと言うことが分かりました。これはどういうことでしょうか。

さらに不審なのは、ご両親が酒のせいになされては悔しいと言いながら、あれほど微に入り細をうがって時間経過とともに何が生じたのかを明らかにしていながら、担当の医師に相談した様子が全くないことです。これは病院名が分かっていますし、睡眠薬と胃腸薬（この内容を分かつとはたいしたものと思いたいますが）を貰っているのですから、また禁煙手帳を付けているのが分かっているのですから、禁煙外来の担当医師に連絡を取るのは至極簡単なことのはずです。坂井裕和記者は担当医にも裏を取っていないそうです。

これはいったいどういうことなのでしょう。

しかも、坂井浩和記者は警察にも裏を取っていないと言うのです。

病院にも連絡しない、警察にも電話一本で済むはずの裏を取っていない。それであれほど大々的な記事にしても良いものなのでしょうか。

お調べいただき、9月末日までにお返事を頂きたく存じます。